



現代日本政治論II

小渕内閣

浅野正彦

総理大臣氏名	就任日	与党
鳩山一郎	22-Nov-55	LDP
石橋湛山	23-Dec-56	LDP
岸信介	10-Jul-57	LDP
池田勇人	19-Jul-60	LDP
佐藤栄作	3-Jun-65	LDP
田中角栄	7-Jul-72	LDP
三木武夫	9-Dec-74	LDP
福田赳夫	24-Dec-76	LDP
大平正芳	7-Dec-78	LDP
鈴木善幸	17-Jul-80	LDP
中曽根康弘	11-Nov-82	LDP (+NLC)
竹下登	31-Oct-87	LDP
宇野宗祐	3-Jun-89	LDP
海部俊樹	10-Aug-89	LDP
宮沢喜一	5-Nov-91	LDP
細川護熙	9-Aug-93	JNP+JRP+NPH+JSP+DSP+SDF+CGP
羽田孜	29-Apr-94	JNP+JRP+DSP+SDF+CGP
村山富一	30-Jun-94	LDP+JSP+NPH
橋本龍太郎	11-Jan-96	LDP+JSP+NPH
橋本龍太郎	7-Nov-96	LDP
→ 小渕恵三	30-Jul-98	LDP+CGP+LP
森喜朗	5-Apr-00	LDP+CGP+CP
小泉純一郎	26-Apr-01	LDP+CGP+CP
安倍晋三	6-Sep	LDP + CGP
福田康夫	7-Oct	LDP + CGP

● 日本の政治家
小渕 恵三
おぶち けいぞう



内閣官房内閣広報室より
公表された肖像写真

生年月日 1937年6月25日

出生地 ● 日本 群馬県吾妻郡中之条町

没年月日 2000年5月14日 (62歳没)

死没地 ● 日本 東京都文京区

出身校 早稲田大学第一文学部卒業

早稲田大学大学院政治学研究科修了

所属政党 自由民主党 (小渕派)

称号 正二位

大勲位菊花大綬章

政治学修士 (早稲田大学)

アマチュア無線技士

群馬県名誉県民

中之条町名誉町民

配偶者 小渕千鶴子 (妻)

子女 小渕剛 (長男)

小渕暁子 (長女)

小渕優子 (次女)

小渕内閣(1998.7.30-2000.4.5)

- ・元衆議院議員(12期)
- ・総理府総務長官、沖縄開発庁長官、内閣官房長官、外務大臣、自由民主党総裁などを歴任
- ・「人柄の小渕」・抜群の人柄の良さ
- ・自由党、公明党と連立政権を樹立(自自連立、自自公連立)
- ➔現在の政府・与党の枠組み
- ・景気回復への道筋をつけた
- ・郵政族の実力者

3



4

小渕恵三 略歴

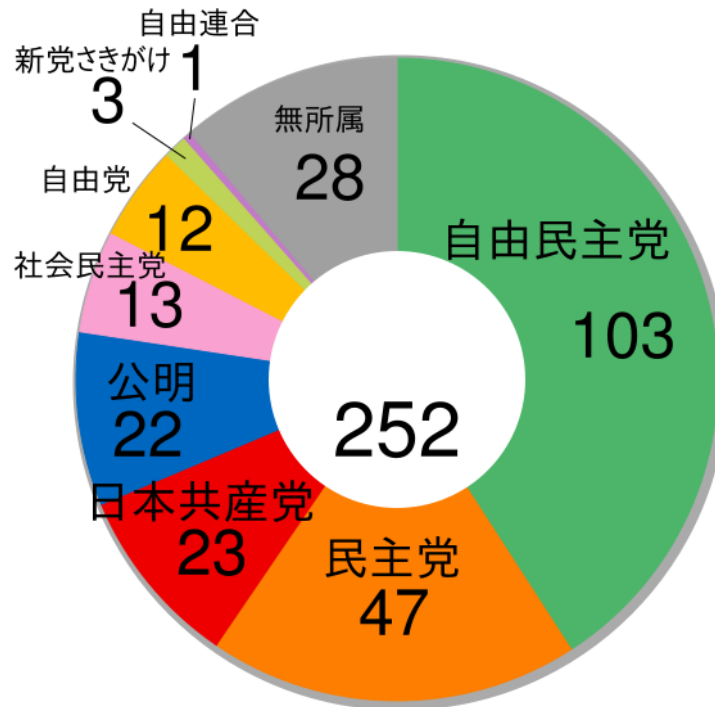
1937年7月 群馬県生まれ。小渕光平（衆議院議員）の次男
1962年3月 早稲田大学文学部卒業（東京外語大を目指し二浪）
1963年4月 早稲田大学大学院（政治学研究科）に進学
海外視察旅行へ（計38カ国）
11月 第30回衆院選にて26歳の全国最年少で当選（旧群馬3区）
47,350票。4議席中3位
（父、小渕光平・衆議院議員が死去したため出馬）
旧群馬3区には福田赳夫、中曽根康弘、
山口鶴男（社会党書記長）
→ 「ビルの谷間のラーメン屋」
「米ソ両大国の谷間に咲くユリの花」
「福田料亭・中曽根レストラン」 vs. 「小渕飯場」
小渕は → 「金帰火来」

橋本龍太郎・中川一郎・田中六助・伊東正義・渡辺美智雄と同期

1970年 郵政政務次官（第3次佐藤内閣）→自ら郵便配達
1972年 田中角栄vs.福田赳夫の総裁選 →田中に投票
→ 群馬県民から怒り
→第33回総選挙で大苦戦
1972年 建設政務次官（第1次田中角栄内閣）
1973年 総理府総務副長官（第2次田中改造内閣）
1979年 総理府総務長官・沖縄開発庁長官（第2次大平内閣）
・・・初入閣 → 同期の中で大臣になったのは最も遅い
1987年 官房長官（竹下内閣）
1991年 自民党幹事長
1994年 自民党副総裁
1997年 外務大臣（第2次橋本内閣）
1998年 首相
1994年 自民党副総裁
1994年 自由党との連立政権発足
自自公連立政権発足

2000年5月14日 死去

1998年の参議院選挙



→ 自民党が大敗(改選61議席 → 追加公認を含め45議席)

→ 橋本内閣 総辞職

7

自民党総裁選

小渕恵三、梶山静六、小泉純一郎が出馬

梶山・・・「軍人」・・・士官学校卒業だから

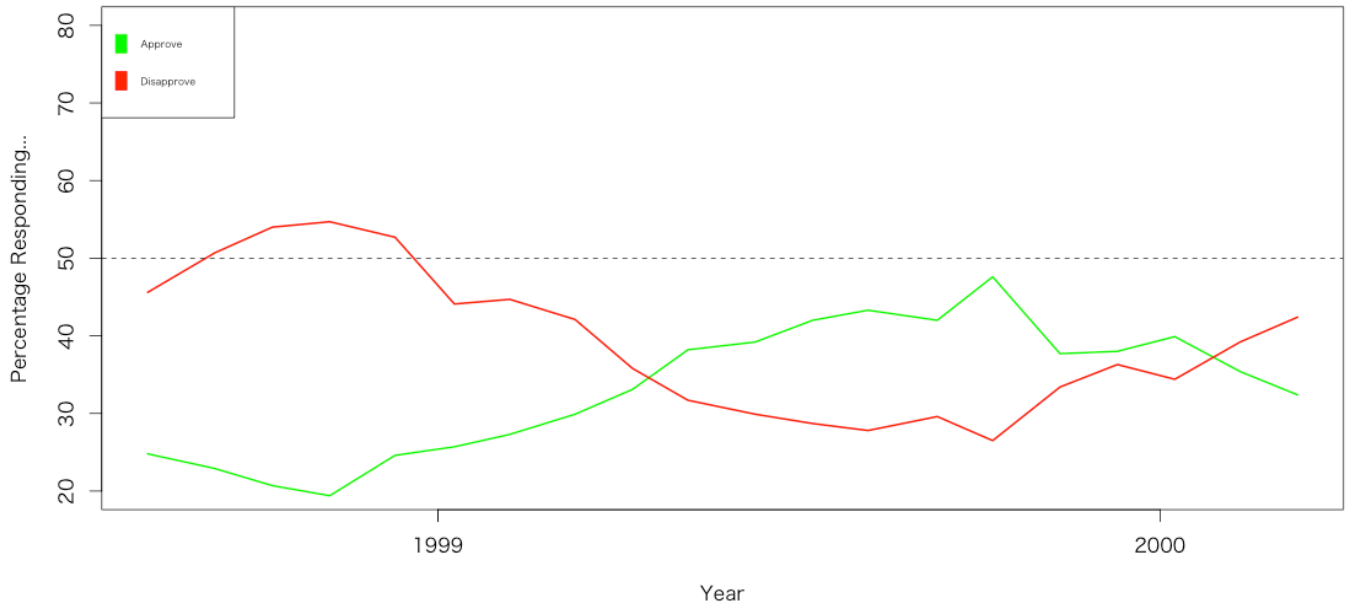
小泉・・・「変人」・・・変な人だから

小渕・・・「凡人」

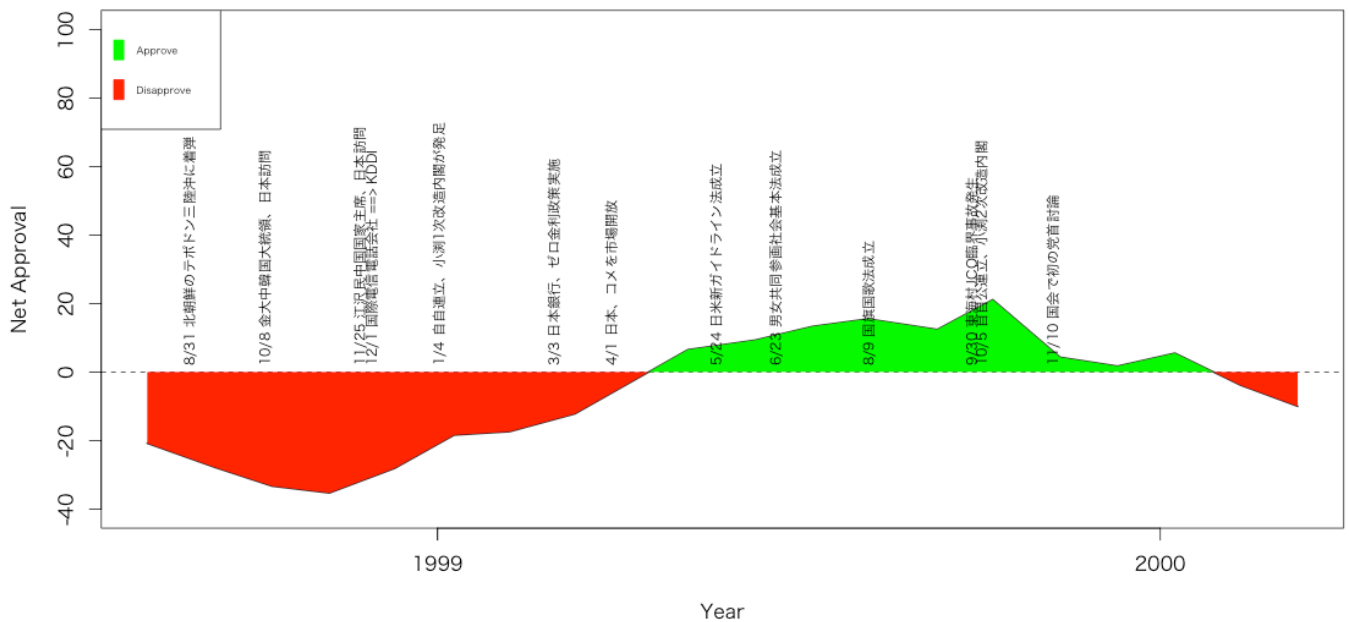


8

小淵内閣支持率 (時事通信 世論調査)



小淵内閣支持率 (時事通信 世論調査)



小渕が総裁選で勝利 → 自民党総裁に

第84代内閣総理大臣に就任 (1998.7.30)

小渕・・・「冷めたピザ」(ニューヨークタイムズ)

当初の小渕内閣の政権基盤は不安定

参議院では与野党が逆転

民主党代表の菅直人が首班指名

衆議院の優越規定(日本国憲法第67条)
→ 辛くも小渕が指名

11

尋常でないマスコミの小渕叩き

「無視された国民の声」(新聞紙見出し)

「一刻も早く退陣を」

文化人からの批判

「天下の奇観・小渕内閣」(江藤淳)

「あんな顔(小渕の顔)を毎日見なければならぬかと思うとウンザリする」(永六輔)

12

小渕内閣の目指すべき国家像

「富国有徳」

防衛庁調達実施本部背任事件をめぐり

額賀福志郎(防衛庁長官)問責決議
…参院で可決

→額賀は辞任 (1999.10.16)

参院選で自民が負け少数与党になったため



13

小渕首相は政権基盤の安定を模索

野党であった自由党、公明党と組む

自由党との連立政権発足(1999年1月)

宿敵…小沢(自由党党首)vs. 野中(官房長官)

断腸の思いで小沢に頭を下げ「来ていただいた」



14

自自公連立政権発足(1999年10月)

公明党が強引に主張した地域振興券導入を受け入れた
巨大与党の誕生(衆議院議員の70%、参議院議員の60%)

公明党が連立に加わることに小沢は難色を示す

→ 小沢の説得に応じて了承する

→ 政権基盤が安定

小沢は強力なリーダーシップを発揮

→ 重要法案を次々に成立

15

小沢内閣で成立した重要法案

1. 周辺事態法(日米ガイドライン)
2. 憲法調査会設置
3. 国旗・国歌法
4. 通信傍受法
5. 住民票コード付加法(国民総背番号制)

「真空総理」

小沢の政治手腕に対する中曽根康弘元総理の評価

16

小渕内閣の行政改革

橋本政権から引き継いだ課題(中央省庁再編)を積極的に推進

次の新設された省庁名は小渕首相が命名

総務省

財務省

文部科学省

厚生労働省

経済産業省

国土交通省

17

小渕内閣の外交防衛

江沢民中国国家主席(当時)の来日時

江主席の日本に対する謝罪要求をはねつけた

謝罪要求の受入れを促す外務官僚を、机を叩いて怒鳴りつけた

沖縄問題

小渕首相、学生時代から沖縄問題に関心

九州・沖縄サミット開催

18

小渕内閣の支持率 → じわじわと上昇

小渕首相の性格や気配りが報道関係者や国民の心を掴む

「ブッチホン」の流行語

「ハイパー庶民」

政策的にも高い評価

← 財政再建への道筋をつけた事

← 外交面での手腕

政権の長期化が予想された

19

「支持率が上がったからといって一喜一憂してはいけない。政権発足時に比べれば支持率は大きく上昇したが、今後、支持率は反転し低落傾向に向かうだろう。その時、もう一度支持率を上昇傾向に向かわせられるかどうかは勝負だ」(小渕総理)

自民党総裁選 (1999.9)

小渕恵三圧倒的大差 → 総裁に再任

加藤紘一(元防衛庁長官)

山崎拓(元防衛庁長官)

公明党が正式に与党に加わる (1999.10)

20

総裁選後の報復人事

党三役人事では、幹事長・森喜朗を留任

総務会長には加藤派が推挙した小里貞利を拒否

池田行彦(政調会長)を一本釣り➡ 総務会長に起用

河野洋平(加藤のライバル)を外相に起用

保岡興治(山崎派が推挙)の入閣も拒否

深谷隆司(早大雄弁会の先輩)を通産相に起用

玉沢徳一郎農林水産大臣(早大雄弁会OB)

21

衆院の比例代表区定数

200➡180に削減する定数削減法を強行採決(2000.2)

教育改革国民会議の開催を開始(2000.3)

自由党との交渉が決裂(2000.4)

連立離脱を通告される

翌日に脳梗塞で緊急入院

小渕内閣総辞職(2000.4.4)

在職616日

「五人組」によって後継に森喜朗が選出(2000.4.5)

小渕内閣の閣僚は、森内閣に引き継ぎ

22

小沢一郎と小渕首相の会談 (2000年3月)

連立政権の進捗度点検

小沢、連立の合意に前進がなかったと小渕首相を問い詰める



小沢「保守新党を作るべき」

小渕「それはできない！」



会談の直後、小渕首相は倒れ、帰らぬ人に

23

小渕内閣の特徴

1. 実力のある重量級の国務大臣を次々登用した

総理・・・全体の方針を策定するだけ

各省庁の個別の案件・・・国務大臣自らの裁量に任せる

チームワーク型の内閣

小泉純一郎時代の内閣のような「大統領型内閣」と大きく異なる

総理・・・強いリーダーシップを執る

国務大臣・・・その補佐に徹するだけ

24

2. 無駄な公共事業を推し進めた

「日本一の借金王」と自嘲

「橋本龍太郎の構造改革を全て無にした」と酷評(栗本慎一郎)

約42兆円の経済対策予算中・・・公共事業が約4割

しかし、減税や金融対策などにも充てられた

25

「ばら撒き」についての二つの意見

①「ばら撒きは必要悪である」

地銀など金融機関の破綻が相次いだ

危機を切り抜けるために「ばら撒き」は必要である

②「孫の代まで残るような借金を作るような政策は愚策」

26

小渕首相在任中の経済状況

比較的好調



日本銀行のゼロ金利政策やアメリカの好景気

→ ITバブル

地域経済の活性化と称し「地域振興券」(公明発案)を国民に配布

→ 「ばら撒きの極地」と酷評